

あけましておめでとうございます。

仲間とともに職場の要求実現を！



発行所
高松市田村町1033-3
TEL (087) 867-4797
FAX (087) 867-6446
kakyoso@kakyoso.com
香川県教職員組合
定価 1部50円 1月100円
組合員の購読料は組合費に含む

香教組ホームページ

http://kakyoso.com/



武器より教育に予算を！職場を基礎に、要求実現へ！
全教のとりくみを伝え、組合加入をすすめるよう！



全日本教職員組合（全教）
中央執行委員長 宮下直樹

一人ひとりの子どもに寄り添いながら、教職員の生活と権利を守るとりくみをすすめるすべての組合員の方に心から敬意を表します。

子どもたちの新しい発見に出会ったときの目の輝きや、ふとした会話の中に滲む悩み。そのひとつひとつに出会うとき、教職員としての誇りと責任を感じます。そして限らない魅力を感じます。教育の専門職としていきいきと働き続けたいと思える職場をつくりたいと思えます。

物価高騰やマスク越しの制約された生活は、特に困難な背景を持つ子どもたちに深刻な影響を及ぼします。思いや悩みを内にしまい込む子もいます。子どもの意見表明権の意味を、否定的ふるまいも含めまるごととらえたいと思います。子どもたちの実態や多様性と向き合い包摂するには、ゆとりが必要です。昨年は全教の調査も契機に教

員未配置問題が顕在化しました。教育の自由を奪い長時間過密労働をまねいた政策の破綻と言えます。今年、教員の勤務・処遇のあり方を定める給特法改正を求めるたたかいが求められます。同時に、今、私たちは、日本を武力や核兵器に依存する国にするのか、「平和を愛する諸国民の公正と信義を信頼して生存と安全を保持する（憲法前文）」国にするのかの歴史的岐点に立っているのではないのでしょうか。12月5日、「戦争国家づくり」に突き進む「安保3文書」が閣議決定されました。「敵基地攻撃能力」保有など憲法を破壊し平和を破壊するとともに、大軍拡をすすめ大増税など暮らしを破壊するものです。「教え子を再び戦場に送るな！」の誓いのもと、「安保3文書撤回！」「軍事費削減、教育予算を増やせ！」の声をあげることを呼びかけます。

そして、すべてのとりくみを職場からスタートしたいと思えます。組合活動の原点は職場の要求実現であり、その力は教職員の団結です。その道すじを示しとりくむ全教の役割をすべての教職員に知らせ、組合加入をすすめる1年としたいと思えます。どうぞよろしくお願ひします。



香川県教職員組合
中央執行委員長 石川謹章

先生の元気が子どもたちの元気に

和大人進など、全国の皆さんとともに参加・共同して行きましよう。

教育に目を向ければ、黙って前を向いて食べる感染対策給食教育現場のブラック化、進まない働き方改革、現場を混乱させる「1年単位の変形労働時間制」、教員免許更新制廃止に伴う新たな研修の義務付け、小学校高学年への教科担任制導入、「全国学テ」実施、教員未配置問題、精神疾患・休職の教員最多など、問題は山積しています。

話は変わりますが、私自身、昨年の人間ドックで大腸ポリープが見つかり、年末に3日間の入院・手術を受けました。入院しての手術は初めてだったので大変な戸惑いと不安がありました。この3日間を終えて感じたことは、①自分の命を医師・看護師さんに預けるしかできない自分の無力さ、②医師・看護師さんへの感謝、③飲食や普段の生活が普通にできる有難さ、④健康や命の尊さ、⑤家族や周りの人の温かさなどについて、今まであまり考えたり、感じたりしていなかったんだなあと自分自身に気づくことができました。

これまで、教育委員会との交渉の場などで、「先生方の元氣（健康）は、子どもたちの元氣につながる」と訴えてきました。が、今回の経験で、しみじみとそう思いました。香川県の教職員の皆さん。「元氣があれば、何でもできる」・・・お互いに健康第一で、仕事に生活に頑張ってくださいませ。本年もよろしくお願ひします。

小黑板

年末年始といつかの研修会や学習会に参加しました。部活動の地域移行化のような教育政策についても学びましたが、教育実践についての学びの時間が中心でした。▼どの会でも共通の話題は、「子どもの姿をどうみるか」です。子どもの学習のつまずき、行動の荒れ様々な様相をどうとらえるかが大きな議論になっていました。そして、それは「発達でみる」ということです。▼3年生はこうあるべきという一般的な発達理論ではなく、目の前の子の発達はその段階か、また、どのように凸凹なのかを教師が見極める力が必要だということ。▼特別支援教育が始まったころ、「子ども

働き方改革の推進を！

のつまずきを発達の過程で捉えると困り感が具体的に現れてくる」と巡回相談員の教わりました。▼長い間、なかなか理解されなままきましたが、ようやく教育学でもこうした議論がなされるようになり、子どもや学級の荒れに対する対策がより具体的に取ることができるようになるのではないかと期待したいところです。

▼一方、「子どもを発達の過程でとらえる」には、教師の見る目が重要です。それには、学びが大切です。結局、学ぶ時間を保障しなければ「学びは睡眠時間を削って」することになります。睡眠時間を削ると精神疾患などのリスクがあります。やっぱり、働き方改革推進しかりません。

第324回香教組中央委員会開催



2022年12月17日、香教組会館において、第324回中央委員会が開催されました。9月の中央委員会以降の情勢と課題が、四宮書記長から提示されました。

人事異動については、「転居をともなう場合や校種間異動の場合などは、一週間前に内示があるが、それでは遅い。もう少し早くならないか。他県でできていることが、なぜ香川県ではできないのか」「異動がわかれば、校内の人事もゆとりをもってできるのでは」という意見が出されました。「粘り強く要求し続けることが大切…」と採決されました。

教育委員会の通知や指導が現場まで十分に伝わっていないことが問題ではないかとの意見が多く出ました。人事異動の調査票については、人事異動からは、「いつ・どのよう説明するか」について指示が出ているにもかかわらず、「臨時職員会を開き、時間を

かけて丁寧に説明した」「臨時職員会を開いたものの簡単な説明だった」「机上の説明と記入用紙が配布されるだけだった」などのばらつきがあることがわかりました。

最近では、市教委と校長会の力関係のバランスが崩れているのではないかとすることも話題になりました。

県庁職員と教員のハーフでの雇用について、「20時間を超えると健康保険の掛け金が労使折半になるが、達しない」と全額労働者負担になる。県庁には、20時間のハーフの雇用があるようだが、教員を20時間以下にしているのはなぜなのか知りたい」という現場の声もあがりました。

高松支部は、プールの統廃合・花園コミセンと学校の統合・給食の無償化など緊急の対応を要する件などについて市教委と交渉してもなかなかお茶をにごすような回答しか返ってこないことから、高松の教育を考える退職教員の会として「市長の街角トーク」で直接話をし、市教委の話と市長の話では温度差があることがわかったと報告がありました。

三豊・観音寺支部からは、三豊市の小学校5校を1校に統廃合しようとする動きがある。学習会を開き統廃合のメリットとデメリットを学んだ。その結果、メリットがあるのは国だけ。三豊市にとっては町の衰退につながるデメリットしかないことがわかったと報告がありました。

その他、学校における教職

員の個人情報の取扱いについての課題や健康管理の問題など現場の切実な課題が議論されました。

組合が大きくなることで、要求の声も大きくなります。最後に、石川委員長が「組合でいっしょに香川の教育をよくしよう。職場で、いっしょにやろうと声をかけ、組合を強く大きくしよう」と呼びかけ、閉会しました。



組合が大きくなることで、要求の声も大きくなります。最後に、石川委員長が「組合でいっしょに香川の教育をよくしよう。職場で、いっしょにやろうと声をかけ、組合を強く大きくしよう」と呼びかけ、閉会しました。

青年部 クリスマス会



2022年12月26日、香教組会館で青年部主催によるクリスマス会が開催されました。コロナ禍もあり、対面では3年ぶりです。青年組合員や組合員でない方が子連れ

でも参加し、日頃の職場や子育ての悩みなどを交流しました。女性部からも飛び入り参加があり、参加者からは、「先輩からのアドバイスも参考になりました」との声がありました。

後半は、全労連の青年部とオンラインでつながり、学習やビンゴゲームなどで盛り上がりました。

香教組定期大会

2023年2月25日13時～
サンメッセ香川

お変わりありませんか？

総合共済、各種共済にご加入の皆さま、お慶び、お悔やみ、入院、おけがなど近況にお変わりはありますか？、各種給付できるものがあるかもしれません。

お心当たりのある方は、お気軽に香川教済（香教組会館内）までお問い合わせください。

TEL (087) 867-4797 FAX (087) 867-6446
mail kakyoso@kakyoso.com

部活動の地域移行について考える

教員の働き方改革から端を発した「部活動の地域移行化」文科省は、当初2023年度中に土日の部活動を地域に移行するとしていましたが、努力目標に方針転換しました。

そもそも、予算も確保しない地方自治体丸投げの通知は無理があることはわかっていました。それでも、強引に押し進めようとした背景には、「最終的には部活動の民営化という目論見がある」と関西大学神谷教授は警鐘を鳴らします。

部活動を含む教職員の働き方の議論と推進は喫緊の課題ですが、部活動を学校から切り離せば働き方改革が進むという問題ではないという慎重に考えなければなりません。

部活動の地域移行化プランは、2014年頃から水面下で進められ、香川県では地域総合型スポーツクラブが、13市町に30の総合型クラブが設立されています。（2022年4月現在）しかし、この中には総合型とは到底

言えないようなクラブも含まれています。

また、神谷教授は、「部活動の顧問をしたくない」という声は大きく取り上げられていますが、「部活動の顧問をしたい」「生徒の声」などは、ほとんど取り上げられていないと指摘しています。

確かに、今の教職員の仕事量では部活動は大きな負担です。部活動を学校からすべて切り離すとしても、学校教育にとって部活動とはどういう位置づけなのか、これから、どうあるとよいのかなど包括的な議論なしに拙速に進めることは、結局、教職員の負担増につながる危険さがあります。

小学校現場では、スポーツ少年団の活動が盛んな地域では、団の人間関係などのトラブルが学校へ持ち込まれ、解決する宛のない生徒指導を余儀なくされ、途方もない時間外勤務を強いられるというケースもあります。切り離すかどうかという二項対立での検討ではなく、大きなビジョンで検討する必要があります。